

目指す学校像	「あした・希望・未来」へ羽ばたく学校 ～「愛」があふれる教育の推進～
--------	------------------------------------

重点目標	1 確かな学力の定着 「学力向上」 2 児童にとって通いたい学校、保護者や地域にとって通わせたい学校教育の推進 「安心・安全」 3 情報発信、教育活動公開、意向反映、地域資源活用 「地域とともにある学校づくり」 4 信頼される教職員の資質向上研修の充実と働き方改革の推進 「教職員の資質向上」
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		学校運営協議会による評価				
年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和6年2月27日				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○令和4年度全国学力・学習状況調査の結果分析から、市と比較して、「国語：-8ポイント⇒-3ポイント」「算数：-7ポイント⇒-6ポイント」少しずつであるが向上している。 ○児童アンケート結果から、「家庭学習：85.3%。自主学习：49.7%」。一層の啓発が必要である。  (課題) ○個に応じた指導等を通して、達成感や充実感を味わえるようにすることとともに、基礎基本の確実に定着させること。 ○学習への関心を高め、家庭学習を含め、進んで学習に取り組めるようにすることが課題。 ○情報活用能力とともに考えて書く能力の育成。	・基礎的・基本的事項の定着	①基礎的・基本的事項を確実に身に付けさせる指導方法の工夫改善。 ・一人1台端末を活用した「個別最適な学び」「協働的な学び」の研究、推進。 ②「できる、わかる」が実感できる授業実践 ・テストの見直し、できなかったことをできるようにする学習活動。 ・児童一人ひとりが、自分の学力を向上させるための方策を振り返る学習活動。 ③全国及び市の学習状況調査の結果分析と調査結果を活かした授業改善。 ④確かな学力定着のための教科担任制。	①さいたま市学習状況調査の教科平均正答率で同一集団(例：R4の3年生とR5の4年生)における市平均との差が令和4年度より2ポイント上がった。 ・タブレットPC活用状況調査の「ほぼ毎日」の市平均との差を5ポイント以内になった。 ②学校評価(児童)「先生たちの授業は分かりやすい」に当てはまる回答した児童が80%に達した。(R4:76.1%) ・学校評価(児童)「自分は意欲的に学習に取り組んでいる」に肯定的な回答をした児童が95%に達した。(R4:89.5%) ③4月実施の全国学力・学習状況調査の平均正答率の市平均との差より1月実施のさいたま市学習状況調査の平均正答率の市平均との差を折れ線グラフに表したとき、右上がりのグラフになった。 ④教科担任制を5・6年生で確実に実施した。	①同一集団での市平均との差は令和4年度より1.4ポイント下がった。分かりやすい授業づくりを進めたり、定着の状況に応じた指導や繰り返しの指導を重視したりして、学習内容の定着に努めてきた。 ・市平均との差は-22ポイントと大きく下回った。授業では積極的に活用されているが、児童は毎日使用したとは捉えていないようである。 ②回答結果は75.2%と目標値を下回ったが、肯定的な回答では95.8%となっている。 ・回答結果は87.9%と目標値を下回った。多くの児童が意欲的に学習に取り組んでいる様子が見られるが、各学年に3～4人程度意欲的に取り組めていないと感じている児童がいると考えられる。 ③市平均との差は5.1ポイント広がった。算数で習熟の程度に応じた学習を取り入れるなど、基礎的・基本的事項の定着に努めた。 ④5・6年生で教科担任制を、4年生で一部教科担任制を実施した。	C	①②わかりやすい授業を実施するために、学校課題研究等を活用し、授業改善をさらに進める。また、繰り返し学習や個に応じた指導を充実する。学習状況調査の結果から児童の学習の状況を把握し、授業改善に生かす。 ・スクールダッシュボードや授業でのICT活用について、よりよい活用方法を教職員間で共有していく。  ・個別最適な学びをさらに推進し、一人ひとりに合った学びができるようにしていく。SAの効果的な活用など、体制の充実を図る。 ③基礎的・基本的事項の確実に定着を図る授業づくりをさらに推進する。 ④学習内容の定着に個人差の大きい教科については、教科担任制を含め、よりよい指導方法を検討していく。	・落ち着いた態度で子どもたちは授業に取り組んでいると感じる。 ・家庭学習を含め、中学校と似たような傾向がみられる。小・中で連携して基礎基本の定着に取り組んでいけるとよい。 ・家庭の教育力に期待する部分も大きいはずである。 ・授業の様子が保護者には伝わりにくいようである。もっと様子を見てもらえるようにするなど工夫が必要と思われる。
		・学びに向かう力の育成	①意欲的に学習に取り組むことができる学習活動の工夫改善。 ②家庭学習の推進。 ・「栄小家庭学習の手引き」の配付、各家庭への啓発。宿題と自主学習の実態把握。 ・読書活動の推進(考えて読む活動)。	①学校評価(児童)「自分は意欲的に学習に取り組んでいる」に肯定的な回答をした児童が95%に達した。(R4:89.5%) ②学校評価(児童)「自分は、進んで家庭学習を行っている」に肯定的な回答をした児童が90%に達した。(R4:85.3%) 学校評価(保護者)「お子さんは、進んで家庭学習を行っている」に肯定的な回答をした保護者70%に達した。(R4:49.7%) ・市学習状況調査「読書が好き」に肯定的な回答をした児童が85%に達した。(R4:80.4%)	①回答結果は87.9%と目標値を下回った。導入の工夫や学習課題の工夫、体験的な活動の充実を進めてきた。児童の実態により合った学習の進め方を検討していく。 ②回答結果は児童が83.0%、保護者が48.2%と目標値を下回った。家庭学習の手引きを活用して、家庭学習の定着を目指したが、不十分であった。 ・回答結果は81.3%と目標値は下回ったが、昨年度を0.9ポイント上回った。図書館司書、司書教諭を中心に、児童図書委員会による取組やボランティアによる読み聞かせなどを通して、読書への意欲化を図った。	B	①児童の興味関心を高め、自ら課題を見つけ、学習に取り組むことのできる授業づくりに学校課題研究を活用して取り組んでいく。 ②家庭学習の手引きの見直しと活用、家庭への啓発、児童の発達段階に合わせたタブレットPCの活用など、児童が家庭学習に積極的に取り組めるよう、手立てを改善していく。 ・日常的に読書に親しむことができるよう、意欲化を図る取組を継続・充実していく。	
2	(現状) ○学校評価項目「楽しく学校生活を送っている」で、児童94.3%⇒94.7%保護者93.8%⇒93.9%、昨年度よりわずかながら向上している。 ○学校評価項目「ルールや約束を守って生活している」で、児童90.8%⇒93.9%、保護者94.0%⇒91.9%であるが、廊下歩行や登下校のルール等の徹底には課題が見られる。  (課題) ○学校評価項目「先生たちは、悩んだ時や困った時に話を聞いてくれる」で、児童95.7%に対して、保護者項目「学校は、子どものことについて連絡・相談したことに適切に対応している」では、肯定的な回答84.5%にとどまっていることへの対応。 ○廊下歩行や登下校のルール等の徹底。	・支援・相談体制の充実	①児童向けアンケート(心と生活のアンケート等)や面談等の記録を基に、児童一人ひとりの状況を継続的に把握・支援。 ②「報告、連絡、相談、見届け」体制を徹底 ③SC、SSW、さわやか相談員との連携、迅速で組織的な支援・相談の推進。	①学校評価(児童)(保護者)「楽しく学校生活を送っている」に肯定的な回答をした児童、保護者が95%に達した。(R4:児童94.7%、保護者93.9%) ②学校評価(児童)(保護者)「学校は、相談したことに適切に対応している」に肯定的な回答をした児童、保護者が90%に達した。(R4:児童95.6%、保護者84.5%) ③学校評価(教職員)教育相談の状況「必要に応じて関係機関との連携が図れている」に肯定的な回答をした教職員が引き続き97%に達した。(R4:97%)	①回答結果は児童が95.2%、保護者が93.3%と児童は目標値を上回った。友達や仲よく生活している児童が多く、また、教職員は児童の思いを生かした活動を大切にしている。 ②回答結果は児童が94.0%、保護者が82.2%となった。教職員は児童と信頼関係を築き、変化に気づくように努めてきた。アンケートや面談等で把握したことは関係職員、管理職ですぐに共有し、組織的に対応してきた。 ③回答結果は97%だった。教育相談主任、教頭を中心に、関係機関や専門的な知見をもつ方と連携を図ってきた。	B	①②概ね児童は学校生活を送っているが、楽しくないと感じている児童もいるため、児童の思いを生かした活動をさらに充実させるとともに、児童のわずかな変化や困りに気づき、対応できるよう、さらに児童と教職員の信頼関係を築くようにするとともに、「報告、連絡、相談、見届け」を確実に実行していく。 ③教育相談部を活用して、これまで同様に積極的に関係機関との連携を進めていく。	・学校に来ると、子どもたちの優しさを感じる場面が多く出会う。そうした様子を見るのが嬉しくなる。 ・「学校は、相談したことに適切に対応している」に保護者の「そう思う」が低いのは、担任が子どもたちに何をしてくれているのかが保護者にうまく伝わっていないのではないかと。担任と保護者の関係をはっきり築くことが大切であると考えている。
		・安心・安全な学校運営	①安全や健康に関する指導の充実とともに、校内外の施設・設備の点検・改善。 ②生徒指導部や安全部を中心に、廊下歩行や登下校等について、共通認識のもと指導を徹底。	①施設・設備の取組による事故が0だった。 ・校内におけるけがの発生場所を集約し、児童と共有できた。 ②学校評価(児童)(保護者)「ルールや約束を守って生活している」に肯定的な回答をした児童、保護者が95%に達した。(R4:児童93.9%、保護者91.9%)	①施設・設備の取組による事故は0だった。月1回の安全点検、日常の点検を行い、要修繕の箇所については、迅速に対応することができた。また、けがマップによって、けがの起きた箇所等について共有した。 ②回答結果は児童が93.8%、保護者が92.8%となった。多くの児童は落ち着いて生活ができていく。ルールや約束の大切さを日常的に伝えていきたい。	B	①これからも安全点検を確実に実施し、要修繕箇所については迅速に対応していく。大きな修繕については、教育委員会と連携し、計画的に進めていく。 ②栄小のことは常に見直していく。児童にルールや約束の大切さを常に伝え、進んで守れる児童を育てていく。	
3	(現状) ○昨年度の学校運営協議会において、「児童・保護者が地域に関心をもち、地域とのつながりを深める」が、熟議の中心の内容だった。 ○防犯ボランティア、教育ボランティアなど地域の資源力の活用を通して、児童の健全育成を図っている。  (課題) ○目指す学校像や児童像を始め、学校教育活動等の児童・保護者・地域への積極的な発信ならびに保護者・地域への公開拡大。 ・地域活動についての情報提供、行事等参加の啓発を一層深めるとともに、学校と地域との連携を強化する必要性。 ○新型コロナウイルス対策を固りながら、地域資源を活用した活動を推進させ、児童にボランティアに対する感謝の気持ちをもたせること。	・情報の「発信」と教育活動の「公開」	①学校・学年だよりの発行、学校Webページの充実(児童の活動、地域行事等の情報発信)、地域掲示板の活用。授業参観・学校公開や金管バンド発表会等(地域公開)の実施。 ②学校運営協議会を始め、PTAや地域からの意向の反映に努める。学校評価結果等を踏まえた学校運営等の改善。(児童の自主的取組・意向把握)学校と地域が連携した活動の実施。 ③SSN【防犯ボランティア、教育ボランティア(さくら草栽培・読み聞かせ・お離子活動等)】の情報を、学校だよりや学校Webページで発信するとともに感謝の会等を実施し学校との連携を深める。 ④チャレンジスクール、青少年育成会(馬宮・植水地区)、民生委員児童員・主任児童委員、ホタルのタベ、自治会等関係機関との連携。	①学校評価(保護者)「学校は、家庭への連絡や情報公開を適切に行っている」に肯定的な回答をした保護者が95%に達した。(R4:94.2%) 学校評価(教職員)「学校・学年だよりの発行や学校Webページ等」は、主として保護者を対象に適切に発行し、情報の伝達が適切に行われた」に肯定的な回答をした教職員が引き続き97%に達した。(R4:97%) ②学校評価(教職員)「保護者や地域住民から寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している」に肯定的な回答をした教職員が引き続き100%であった。(R4:100%) ③学校だより、学校Webページに行事や取組について掲載できた。学校Webページは1ヶ月に2回以上更新ができた。 ④地域活動に職員が何らかの形でかかわり、実施することができた。地域の方が来校する機会を令和4年度より増やすことができた。	①回答結果は保護者が94.9%、教職員が100.0%だった。学校だより等で情報を発信できた。学校Webページには、日常の学校の様子を掲載した。地域への学校公開は、学級閉鎖により、2月に延期したが、行うことができた。金管バンドのコンサートには地域の方もお招きした。 ②回答結果は97%だった。ご意見等は真摯に受け止め、対応を検討し、改善できるものは改善を図ってきた。 ③学校Webページは月に2回以上更新した。給食室からのページや学校の日常をお伝えするページを新設した。 ④職員が育成会の行事に関わったり、地域行事の準備に関わったりした。地域に向けた学校公開を実施したり、金管バンドのコンサートに地域の方に案内したりして、来校していただける機会を設定した。	B	①情報発信はできているので、生の学校の様子をさらに見ていただけるようにして、学校への理解を深めていただけるようにしていく。 ②学校にいただいたご意見は真摯に受け止める姿勢を継続し、学校運営の改善に生かしていく。 ③学校Webページの充実をさらに進めていく。 ④教育活動の積極的な公開ができるようにしていく。授業参観にとらわれず、様々な活動を対象として考えていく。	・保護者が学習のお手伝いをしたり、活動に参加したりすることがあると、子どもたちの様子も分かる上によりよい活動にもつながるのではないかと。 ・普段の子どもの様子が見られるとよい。家では見られない我が子の姿を知ることにもなる。 ・地域の行事などは学校だけでなくPTAを通じて周知ができるとよい。 ・学校、家庭、地域で人とのかわり合いを大切にしたコミュニティをしっかりと築いていけるとよい。
		・指導力向上研修や服務研修の実施	①学校課題研修として、「確かな学力、学びに向かう力を身に付け、自らの未来を切り拓く児童の育成」を研究主題に設定し研鑽に努める。 ②指導訪問等を活用した授業力の向上 ③生徒指導部、教育相談部、情報教育部会での事例研修や実践報告等を通じた情報共有・組織的な対応。 ④学期に1回服務研修を実施し、随時指導伝達を行う。	①②さいたま市教員等資質向上指標(キャリアnavi)「キャリア振り返りシート」の「学習指導」「ICT活用」の合計ポイント(12月)の平均が5月より1ポイント上昇した。 ③学校評価(教職員)生徒指導の状況、教育相談の状況の各項目に肯定的な回答をした教職員が引き続き98%に達した。(R4:98%) ④学期に1回の服務研修を確実に実施した。服務に関するチェックリストで、肯定的な回答をした教職員が95%に達した。(R4:90.9%)	①②結果は5月より1.4ポイント上昇した。学校課題研究や教育委員会の研の成果を生かしたり、指導訪問で具体的に指導し、積極的に他校の研究発表会に参加したりして、教員一人ひとりが授業力の向上を図ってきた。 ③回答結果は、生徒指導が96%、教育相談が98%だった。生徒指導では全職員が足並みをそろえた指導や児童の実態に応じた情報モラル等の学習の充実、組織的な対応を、教育相談では、SCやSSW等との連携を含めた組織的な教育相談体制の確立などを進めることができた。 ④毎学期、服務に関する研修を行った。また職員集会等で、新聞記事等を活用して、服務に関する指導を管理職から行った。服務に関するチェックリストについて、96.7%の職員が肯定的な回答をした。	B	①学校課題研究をリニューアルし、児童の実態を踏まえて、教職員一人ひとりが課題をもって研究を進められるようにしていく。課題設定の際には、教員等資質向上指標「キャリアnavi」等を参考にできるようにする。 ②指導訪問を通して、最新の教育動向を踏まえた授業改善を図る。 ③生徒指導部、教育相談部の定例会の確実な開催と情報共有、組織的な対応の徹底を図る。SC、SSW等との連携をより深める。 ④服務については繰り返しの研修を通して、意識を高める。また、ストレスを溜めない職場環境づくりに努める。	
4	(現状) ○学校課題研修を始めとした、教員研修を計画的に実施し、指導力向上を目指している。特に昨年度はICTの活用について重点化を図った。 ・服務研修を計画的に実施し、信頼される学校運営に努めている。 ○働き方改革を推進し、効果的で効率的な学校運営に努めている。  (課題) ○経験の浅い教員が増え、組織的に研修する必要性。事例研修や実践報告などを教員間で共有する機会を積極的に設定する必要性。(ICT活用等の学習指導・生徒指導や教育相談等) ○教職員全員が、教職員の事件事故0の意識を高めること ○幅広く情報を収集し、教職員の意向を踏まえた業務改善の取組や対応。	・効果的、効率的な取組や対応による働き方改革の推進	①学期に1回を目安に、教職員自ら提案する働き方改革の取組を共有し、実践化を図る。 ②学校協力ボランティアの活用を推進する。	①教職員からの提案を共有し、実践できた。 ②学校応援団と連携して、ボランティアの活用ができた。	①働き方改革のアイデアを募ることができた。多くのアイデアは集まらなかったが、企画委員会などでは働き方改革の視点からも様々な活動の見直しを行った。 ②学校応援団、PTA執行部と連携して、ボランティアの活動の進め方について共有することができた。運動会ではボランティアの方にも力を借りてきた。	B	①働き方改革のアイデアを募ることができた。多くのアイデアは集まらなかったが、企画委員会などでは働き方改革の視点からも様々な活動の見直しを行った。 ②学校応援団、PTA執行部と連携して、ボランティアの活動の進め方について共有することができた。運動会ではボランティアの方にも力を借りてきた。	・多忙中、教材研究や指導法の研究など大変よく努力されている。 ・教職員に感謝している。体調を崩したりして離職などのないようなサポート体制にも気を配ってほしい。

